

メンター通信(VOL. 2)

平成21年11月15日
【愛知県自閉症協会】

インフルエンザに対する不安が高まっています。おかげさまで7～9月についてはメンター自身(家族)への影響はなく、無事終了することができました。今回はその7～9月についての活動報告および相談データについてご報告いたします。

①メンター活動報告(7～9月)

7月6日、7日	家族支援プログラムサテライト(江南会場) サポートブック研修 障害特性講義・疑似体験 ピアカウンセリング	1名 1名 10名
7月12日	保育士連続研修におけるサポートブック研修 支援者向けサポートブック研修	1名 1名
9月10日	サポートブック研修	1名

②メンター活動報告書の集計(7～9月)

13名の方から合計57件の報告をいただきました。
つぼみの会で受けた相談、つぼみ主催の茶話会などの他にメンターが個々に受けた相談も該当します。以下に結果をご報告いたします。各項目、集計から見られる傾向を加藤が勝手に分析しました。

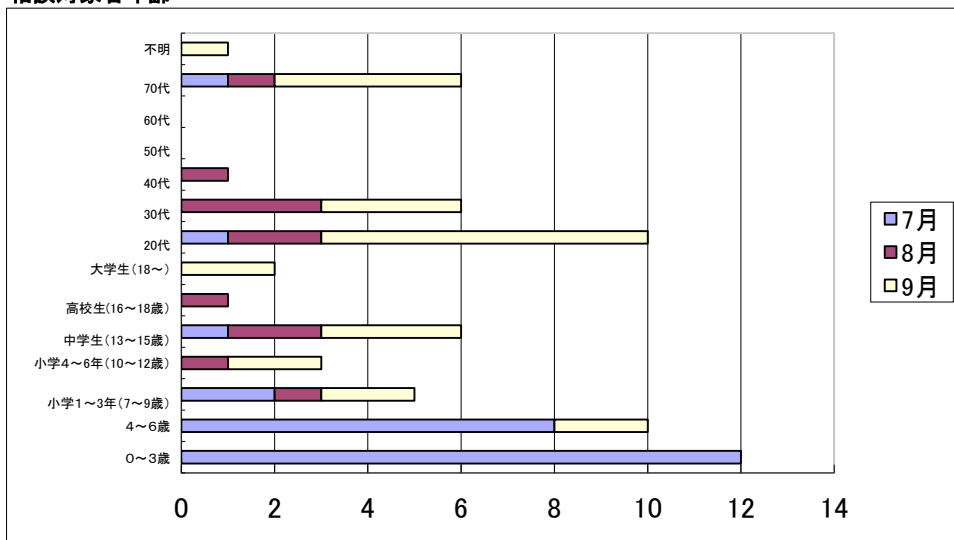
報告数は一つの行事に複数のメンターからのものもありますので、相談件数が詳細数とかならずしも一致しません。ご了承ください。

(1) 相談件数と性別・知的・手帳の推移

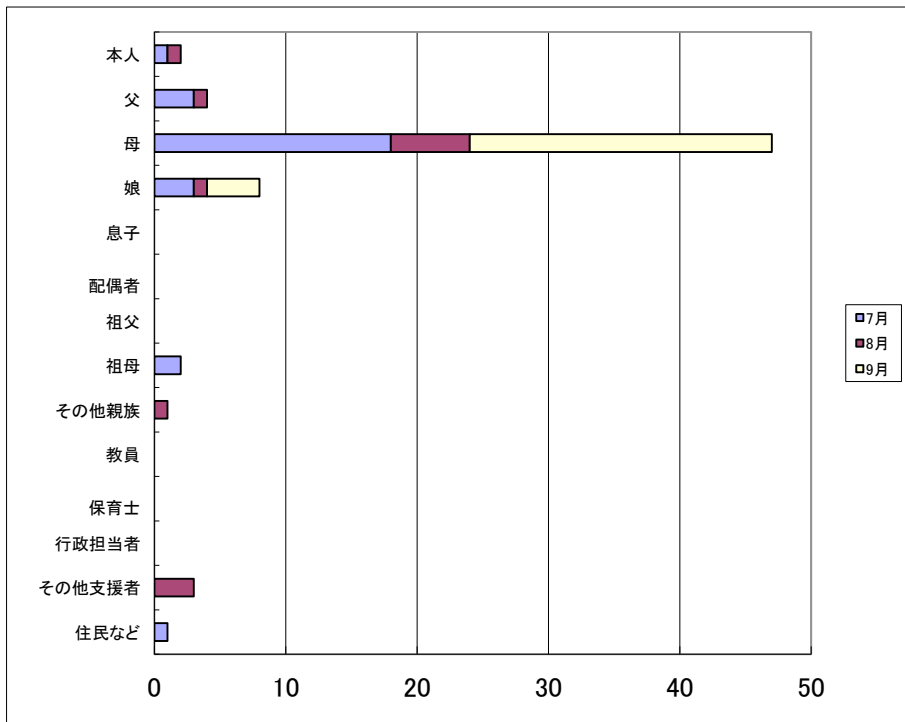
*未記入もあるため合計は一致しません

	相談件数	相談対象者		知的障害		療育手帳	
		男	女	あり	なし	あり	なし
7月	50	18	8	12	12		8
8月	18	10	2	3	8	4	6
9月	47	10	15	4	22	5	21

(2) 相談対象者年齢



(4) 相談者と相談対象者との関係



ここで・・・吉川先生&加藤企画「今回のゲストメンテーター」

メンター活動お疲れさまです。夏休み、メンターをされている皆さん自身も家族と過ごしたり、どこかにお出かけをされたり、リフレッシュをしたりする時間がとれましたでしょうか？

そんな夏休みも過ぎて、日々相談が増え、大変ご苦労されていることと思います。4月当初に比べて、継続の相談が増え、相談者がメンターを指定してくるなどもあるようですが、相談者が「また相談したい」という気持ちを持つ相談を皆さんが心がけていらっしゃるからからこそその結果だと思います。信頼関係ができていく証拠ですね。相談者によっては、他に相談するところがないという理由で相談をしている場合もあるかもしれませんが、家族の孤立(母親の孤立)は、精神的にも身体的にも大変悪影響を及ぼしてしまうこととなりますので、メンターとの相談が、孤立している家族の風穴になっているのだと思います。風穴が開くことで、相談者は誰かとつながっているという感覚を持てるようになります。

ただ、メンターである皆さん自身も一人で相談を受けていると、一人で抱えてしまいやすく、「孤立感」を抱きやすくなります。ときには、相談者の考えや感情に対して、つらい気持ちや怒りの気持ちなどを感じることもあるでしょう。プライバシーや守秘の問題はありますが、皆さん自身が孤立しないためにも、ときには、メンター同士で話す時間を設けるなどして、ご自身の考えや気持ちを整理してみてくださいね。

所沢市教育センター 原口 英之

⑤ 今後のお知らせ

- 10～12月分の報告書提出期限は1月10日です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
- 22年2月27日開催の応用研修について、12月ごろに詳細案内、事前アンケートをお送りいたします。メール配信をご希望の方は事務局加藤まであらかじめご連絡いただけますようお願いいたします。期日までに必ずご提出いただけますようお願いいたします。
- なお、2月28日に同じ会場にて「支援者コース」を開催いたします。お住まいの地区で保健士、保育士、心理士、学校の先生などご案内していただける方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。追って案内文書を送付いたします。

第二回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

日頃からのメンター活動お疲れ様です。今回の集計を見せていただくと、継続相談が多くなってきているのが、目立っているように思います。原口先生にもご指摘をいただいているように、相談が継続していることそのものは、皆さんの活動の質の高さを示すものだと思います。根気よく活動しておられることに、あらためて敬服いたします。

ただ継続相談の必要な深刻なケースを一人だけで、ペアレントメンターだけで抱えることはやはり避けた方がよいように思います。皆さんへの相談を「風穴」にして、誰かに相談をすることの意義、実際的なリソースとして、専門家、専門機関を利用することの有用さを、あらためて意識していただけるようになっていくことが、必要になってきます。

相談者によってはあきらめや焦りの気持ちが強く、他への相談や助力を求めることに消極的な方がいらっしゃるのだと思います。その場合でも、そのときの気持ち、現状をどのように認識しているのか、必要な援助は何かとといったことを、相談者の話を聴きながらゆっくりと確認していくことで、少しずつ落ち着きを取り戻していけるのでしよう。そのときまで、メンターの側が息切れをしないペースで関わっていくことが大切になってきます。言うは易く行うは難し、ではありますが、相談者の周りに繋がりが回復していくことを目指して、活動を続けていっていただければと思います。

インフルエンザが流行ってきています。皆様もご家族もくれぐれもお身体に気をつけて、お過ごしください。

名古屋大学附属病院 親と子どもの心療部 吉川 徹

<編集後記>

10月某日、我が家の息子の養護学校が学部閉鎖になりました。お察しのとおり新型インフルエンザにおける影響です。幸い息子が感染することはありませんでしたが、学部閉鎖の4日間、息子と24時間一緒に過ごすことになり改めて居場所のあることの大切さを再認しました。電話で誰かと話す攻撃してきたり仕事をすると邪魔をしてくたり・・・と知的重度の息子は「いかに母親を振り向かせるか」(本当は母親を操縦したいのでしょうか)と必死になっていました。晴れの続く4日間は毎日お弁当を作り公園で二人でのんびり食事をしたりして過ごしましたが、子供と真剣に向き合う時間が本人の気持ちの安定につながるんだなと思いました。

今年度の家族支援プログラムには昨年度受講のメンターさんに順次加わっていただくことでグループ相談に参加していただいています。プログラムに参加されるご両親の方はみなさん不安をたくさん持って会場に足を運んでいらっしやいます。受講した際の講義の内容が、実践によってさらに深みのあるものになることを願っています。その際わからなくなった点については遠慮なく事務局までご連絡ください。

前回Vol.1につきましては愛知県発達障害者支援体制整備推進協議会に副会長から報告を兼ねて配布させていただきました。次回Vol.3を集計するころには応用研修の時期になってきます。みなさまからいただいた報告書が研修内容に反映されてきます。ぜひご提出のほどよろしくお願いたします。

発行者: 愛知県自閉症協会(つぼみの会)

〒460-0013 名古屋市中区上前津2-14-25 上前津中央マンション202

TEL/FAX 052-323-0298 E-mail tubomi-aa@nifty.com

編集担当者: 支援部 加藤 香